

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（小学校用）

都道府県名	熊本県
-------	-----

I 学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	熊本市立池田小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	3	3	3	1	19	27
児童数	76	90	87	99	92	95	3	542	

II 研究の概要

1. 研究主題

自ら学ぶ力をはぐくむ授業の創造
～よさを生かす学び合いを通して（算数科）～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

* 実施学年及び教科を選択した理由を記すこと。
全学年算数
(子どもの理解度に差が出やすい教科であり、学校として過去に当該教科に関する研究実績があるため。)

(2) 年次ごとの計画

平成 14 年度	○ 研究主題	自ら学ぶ力を育む算数科学習指導の工夫 ～よさを生かし、共に学び合う姿を求めて～
	○ 仮説	算数の「よさ」を味わえるような問題や教材を工夫すれば、 子どもたちの「よさ」が生きるような学習過程や学習形態を工夫すれば 自他の「よさ」を認め合う評価活動を工夫すれば、 ↓ 子どもたちは「よさ」を実感し、互いに学び合いながら、自ら学ぶ力 を育てることができるだろう。
	○ 研究の内容・方法	
	① 授業では	
	i 算数のよさを味わえる問題や教材の工夫	
	・教材、教具の工夫	・追究の必要感や目的がある問題の工夫、選定
	・発展的及び補充的な教材の工夫、開発	・算数的活動の工夫
	ii 子どものよさが生きる学習過程や学習形態の工夫	
	・問題解決学習の展開	
	・自力解決の場の充実	
	・共同解決の場の充実	
	・TTによる指導法の改善（支援ボランティア活用等）	
	・少人数による指導法の工夫（指導内容と指導過程）	
	iii 自他のよさを認め合う評価活動の工夫	
	・子ども一人一人の実態の把握	
	・子ども一人一人に応じた支援と評価（内容と方法）	
	・ノート指導による自己評価力の育成	
	② 授業外では	
	i 朝の読書活動の充実	
	・10分間読書・図書委員会による読み聞かせ	

- ・PTA 教養委員による読み聞かせ
- ii 計画的・効果的な算数環境の整備
 - ・算数コーナーの設置
 - ・校舎を生かした算数環境設営
 - ・教室設営の工夫
- iii 放課後の時間の計画的な活用
 - ・スキルタイム（水・木曜日～15分間～）
 - ・わかりタイム（金曜日～60分間～）

平成
15
年度

- 研究主題 自ら学ぶ力をはぐくむ授業の創造
～よさを生かす学び合いを通して（算数科）～
- 研究の仮説

子どもの多様性が発揮されるような問題や教材を工夫すれば、
子どもが人の考えにかかわっていく力を育てる指導を工夫すれば、
子どもの実態を評価し、実態にあった学習形態を工夫すれば、



子どもは、学び合い、自ら学ぶ力をはぐくむことができるだろう

- 研究の内容・方法
(授業改善)

<研究の中心1 子どもの多様性が発揮される問題や教材の工夫>

多様性が発揮される条件を子どもが「問い」を持つことと考える。そのためには、新たな概念と出会ったときの反応を引き起こすような教材、子ども同士の考え方のちがいを生み出す教材、数理的な美しさ、不思議さが含まれる教材、ゲーム性のある活動を含む教材などの開発が必要だと考えている。

- ・教材・教具の工夫
- ・算数的活動の工夫
- ・発展的及び補充的な教材の工夫・開発
- ・追究の必要感や数学的な価値がある問題の工夫
- ・発問の工夫

<研究の中心2

子どもが人の考えにかかわっていく力を育てる指導の工夫>

学習過程の中に、自力解決の「自主」学び合いの「協同」そして、新たな発見、認識の安定の「創造」を位置づけ、特に「協同」の場面では「他者の考えにかかわるようなような指導」を取り入れていくことにする。

- ・つなぎ言葉の指導
- ・リレー説明
- ・感想交流

<研究の中心3 子どもの実態を評価し、実態にあった学習形態の工夫>

本校には、少人数指導の教師3人が加配されている。それぞれの教師を低学年部、中学年部、高学年部に配置し、教師間の連絡を密にすることで、子どもの実態をより把握していこうと工夫している。

少人数指導でコースに分かれるときには、事前・前提テストを実施し、結果を返していくことで、コース選択の目安を持たせようと考えている。また、コース選択を的確にできるようにするために、子どもの自己評価力を高めていこうと考えている。

(学力醸成)

- 日課表の工夫
- 朝の活動・・・「スキルタイム」、読書指導

(地域連携)

- 地域との連携
- 地域の教育力の活用

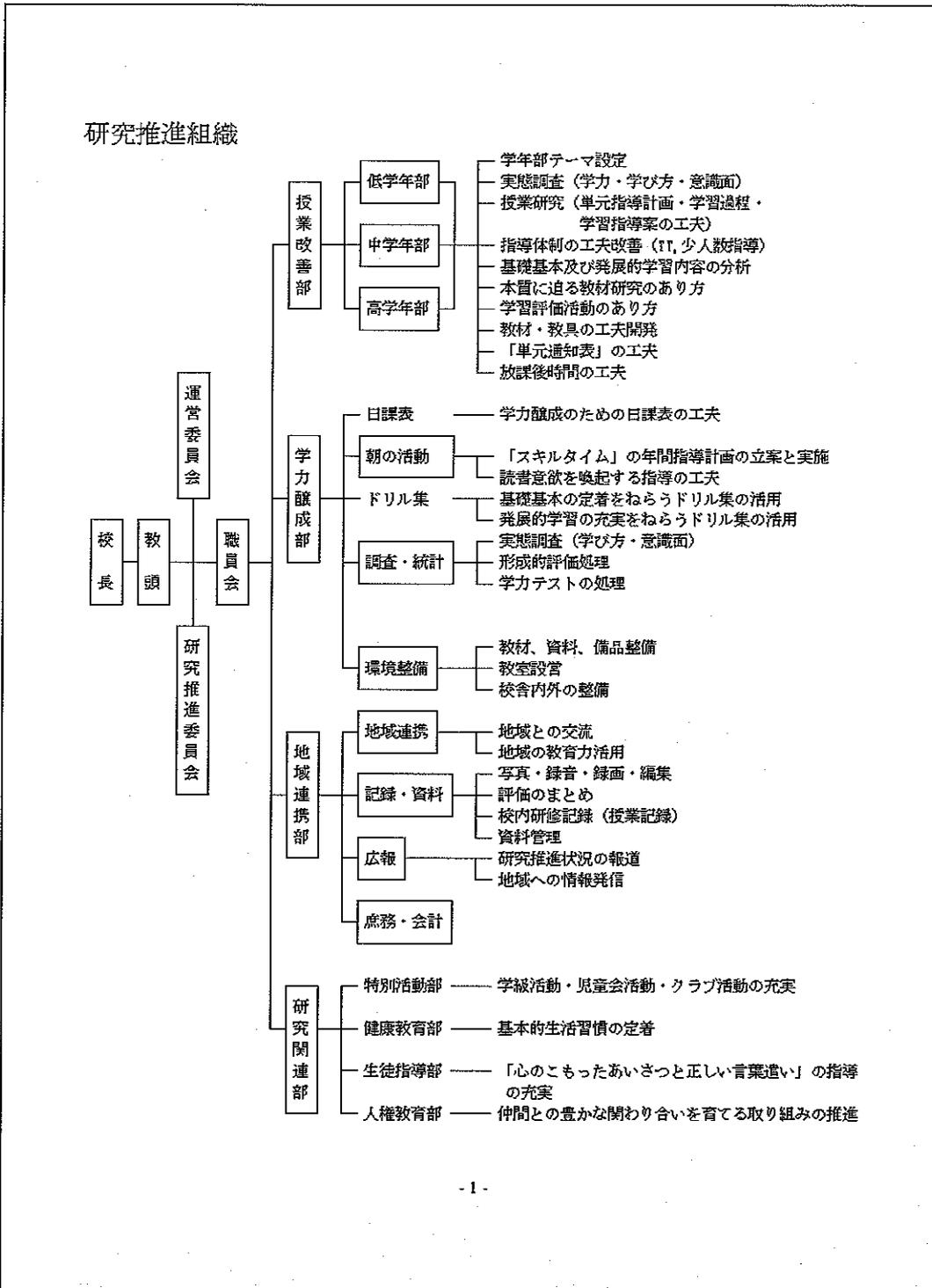
平成

- テーマ（研究主題） 自ら学ぶ力をはぐくむ授業の創造
～よさを生かす学び合いを通して（算数科）～

- 16年度
- 研究の見通し
 - 研究の内容・方法
 - <研究の中心1 子どもの多様性が発揮される問題や教材の工夫>
 - <研究の中心2 子どもが人の考えにかかわっていく力を育てる指導の工夫>
 - <研究の中心3 子どもの実態を評価し、実態にあった学習形態の工夫>

* 平成15年度からの新規校については、平成15、16年度の計画について記入すること。

(3) 研究推進体制



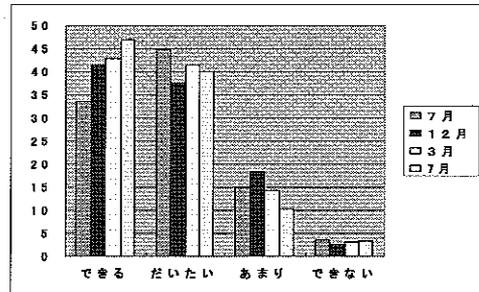
* 本年度より、研究体制を「授業改善部」「学力醸成部」「地域連携部」に分けて実践に取り組んだ。

III 平成15年度の研究成果及び今後の課題

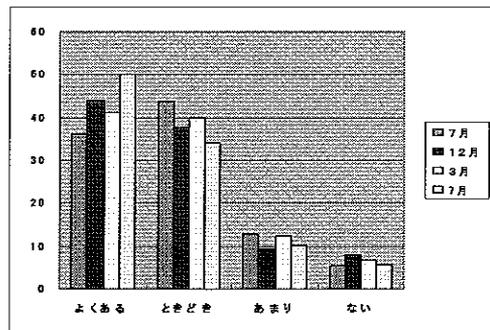
1. 研究成果

- 子どもの多様性が発揮される問題や教材の活用の工夫を行うことによって、子ども自らが問いを持ち、問いに対して意欲的に追究する姿が多く見られるようになった。このことは、アンケート結果からも、「自分の考えを持つことができる。」と答えた児童が増えてきていることから明らかである。
- 子どもが人の考えにかかわっていく力を育てる指導の工夫として、TTや少人数指導によって子どもの多様性を引き出す指導や他者の考えにかかわるようにする指導を行うことによって、子どもが安心して自分の考えを発言できるようになってきた。さらに、学年の実態に応じたコミュニケーションの取り方の指導をしながら、間違っただけを単に間違いとして処理するのではなく、他の子どもに返していくことで、子どもはお互いのよさに気づき、そのよさを受け入れていく態度も育ってきた。
- 少人数指導を取り入れたことで、子ども一人一人に十分な算数的活動の場や表現の場を保障することができ、学習への意欲を持続させることができた。また、それぞれのコースで学習内容の理解を深めることができた。
- 研究主題へ向けての取り組みの結果、「算数が好き」と答えた子どもは昨年度当初70パーセントだったが、今では、80パーセントを超えた。さらに、算数以外の学習においても、「話す・聞く」などの学び合いが高まってきた。

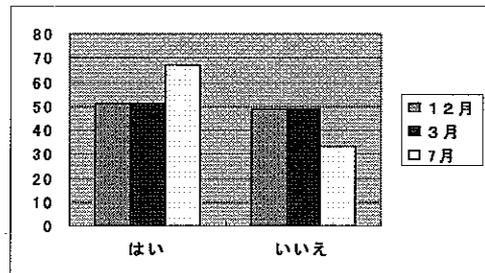
<自分の考えを持つことができますか。>



<友達の考えを聞いて「いいな」と思うことはありますか。>



<質問をすることができますか。>



2. 今後の課題

* コース別少人数指導に分かれるときに、自分にあったコースを選択させていくためには、教師が子どもにこれからの学習の見通しを、どのように説明していくかを考えていかなければならない。また、子どもには、さらに自己評価力をつけさせていく必要がある。
少人数指導に限らず、どの学習形態においても子どもの多様性を引き出すような問題や教材・教具を工夫し、子どもが意欲を持続させ、多様な意見を出し合い、成就感をもてるようにする必要がある。

IV 学力等把握のための学校としての取組

* 昨年度より定期的（年2回）に、同じ内容のアンケートを全児童に実施し、

学習状況、学習に対する意識の変容を捉えようと試みている。
* 本年度は「ゆうチャレンジ（算数）（県教委作成）」（2月5日）を行い、児童の算数科における学習状況を把握する。

V フロンティアスクールとしての研究成果の普及

* 平成14・15年度 熊本市教育委員会委嘱（教育課程一般）研究発表会
「自ら学ぶ力をはぐくむ授業の創造
～よさを生かす学び合いを通して～（算数科）」
平成15年10月22日（木）
* パンフレット「輝きっず！池田」を作成し、学校の取り組みを地域に紹介。
* 「フロンティアスクールだより」を作成し、市内各校に配布し、研究成果を普及する。

◇ 次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T、Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無